



# kanamoto ■ カナモトエグザミネー examiner

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.40

第43期中間事業報告号

ニュースハイライト●財務ハイライト●第43期中間事業報告書

株主様からのご質問に答えるQ&Aコーナー●取扱商品のご紹介●株式情報

## 4月に海外IR（イギリス・アメリカの機関投資家訪問）を実施しました

海外IR活動は2002年以来5年振り。今年は太陽と進路を同じく、西回りでロンドンに飛び、大西洋を越え、ボストン、ニューヨーク、そして西海岸と転戦して帰国しました。極めて短い日程ではあったものの、電話によるテレフォンカンファレンスも含め合計で20社と対談、成果を実感できるツアーとなりました。

### 海

外IRは、せめて2年に一度は訪問をと計画していたものの、気がつけばずいぶんと間隔が空いてしまっていたというのが言い訳なのですが、それも些か過ぎたようです。イギリスでは当方が考えていた以上に時が流れていたようで、投資家はその企業なりを大きく変貌させていました。ロンドンの投資家といえば、いかにも英国紳士然とした三つ揃えのスーツを身にまとい、大手銀行等を背景に莫大な資金力を持つマネジメントハウスという印象が強かったのですが、今回訪問した先は、人の格好もオフィスの作りも極めてカジュアルで、所在地も金融の中心地・シティに拘らないところばかり。彼らはヘッジファンドに分類される投資家です。



New Star Asset Management Limited AMのCFAのAlastair MacGregor氏。同社は英国でFidelityに継ぐ第2位のシェアを誇る

ヘッジファンドというと、空売り・空買いなどを頻繁に行う投機的運用を行うというあまり良くないイメージが先行しますが、聞けば大手の証券会社や投資顧問のアナリストやファンドマネージャーがスピニングアウトして新しいファンドを作っているとのこと。お取引先も得意分野も継承した形でファンド形成をしているようで、英米が共通だけでなく、日本でも同様の潮流にあります。

証券各社によると、現在も投機的なヘッジファンドは存在するものの、話を聞きたいという姿勢があるところは極めて真摯な投資家で、中長期的見地で投資を行っているファンドであるとのこと。

前置きが長くなりましたが、訪問先と当社社長のQ&Aの中で、印象的なものをいくつかご紹介しましょう。

### 【事業関連のQ&A】

**Q. 業界はどのような状況にあって、その中でカナモトをどのように成長させるつもりか？**

**金本** — 国内の建設投資額は今後も公共事業が継続的に減少するが民間建築増もあり、横這いでしょう。一方、レンタル化率は今後も上昇の傾向。結局、レンタルマーケット全体は横這い、その中で当社を含む上位業者のシェアが上昇することになると思います。当社は自前拠点の拡充とM&Aにより営業テリトリーを拡大していく…、つまり、M&Aが当社の成長エンジンと考えています。

**Q. 中国に合弁会社を設立されているが今後の具体的な展開は？**

**金本** — この3月に開設披露を行ったばかりの企業で、まさに生まれたばかりの状態です。当社グループの業績に影響するのはまだまだ先のこととなります。ただ優秀なパートナーを得ていますし、将来に期待を寄せています。



Wellington Management社は必ず訪問する1社。David W. Barnard氏には9年前に当社札幌本社にも来訪いただいており、小誌に登場するのは2回目

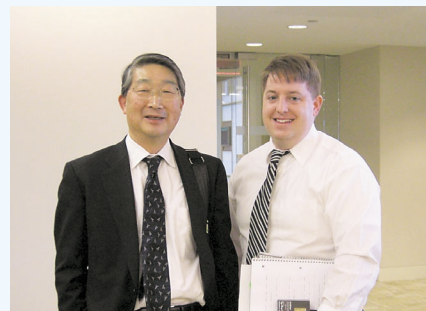
**Q. 中古建機市場の先行きには不透明感はないのか？**

**金本** — 中国の需要は今後も旺盛といえます。これに加えて、今後はインドやロシアのインフラ整備需要が予想され、品質に優れた日本製建機の需要は、向こう10年くらいは堅調に推移すると思います。

**〔財務関連のQ&A〕**

**Q. 2006年10月期は業績が急回復しているが、その理由は？**

**金本** — 第一に、単位資産あたり売上の改善が挙げられます。レンタル売上は単価×日数ですが、日数の上昇は困難。なぜならレンタルは1週間未満の短期契約の繰り返しなので、その前後は在庫になるからです。ここ数年、台数ベースによる出庫率に大きな変化はないことから、需給の緩和にともなって単価が改善されたことが売上の改善につながったと判断できます。第二の理由は、売上原価の改善です。具体的にはここ数年における資産運用期間延長努力が奏功した結果、減価償却と支払いリース料の合計値の対売上比率が低下したためです。



初めてお会いするのに、完璧に当社を理解したうえで質疑を準備されていたFidelity M&RのMichael J. Fleming氏。今回一番説明しがいのある投資家であった

**Q. 今後の配当政策は？**

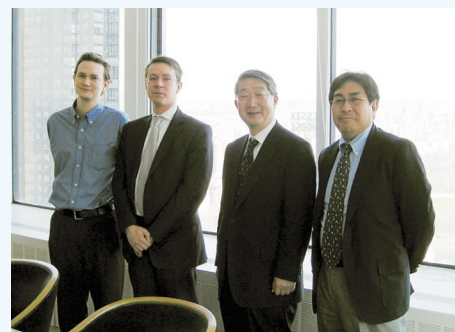
**金本** — 従来は18円の安定配当を必死で行って来ました。体質改善も済み、今後は収益向上も見込めるので、一定の目標配当性向を設定したいと思います。ただ、株主資本500億円という目標を考えれば、30%以上というのを目標に据えていきたいと考えています。

**Q. 昨年、ファイナンスをしているが、今後、増資や転換社債発行の予定はあるのか？**

**金本** — 日本では、普通社債を低コストで発行できるA格の債権格付取得には、株主資本500億円が条件。一株利益が向上したなら可能性はありますが、昨年小規模な増資を行っていますし、近々には予定はありません。

さ

て、今回ご尽力いただいた証券会社から得た当社についての各社評は、概ね良いものばかりでしたが、当然手厳しいものもありました。すべてをご紹介したいところですが、誌面の都合もありますので、ひとつだけ。「カバーするアナリストがいないなら、もっと投資家訪問をして流動性を高める努力をしてほしい」との意見がありました。国内については機関、個人を問わず投資家訪問を実施しておりますが、今後は海外もサボらずに訪問するよう努力いたしますので、アナリスト諸兄、どうか当社のレポートをお書きいただければ幸いです。といいましょるか、建機レンタル業界については、誰も継続して書かれてませんので、今がチャンスかもしれませんぞ。☺



いちばん左がArnhold S. Bleichroeder社のThibaut Pizenberg副社長、その隣がCharles de Cromelle上級副社長。欧州の企業らしく、実に厳しい質疑が続いた。ミーティングは大変有意義でポジティブウォッチを続けたいとの評価を得た

## 中国地方初の拠点「広島営業所」を開設いたしました

本年6月5日、当社グループとして中国地方初の拠点となる広島営業所(広島市安佐南区)を開設いたしました。当日は同営業所内での竣工式に続いて、夕方には広島市内のホテルに関係者約200名のお客様をお招きして開設披露祝賀会を催しました。

広島営業所は、中国道と山陰道を結ぶ高速道路のICに近く、県内外へのアクセスが良好なうえ、広島市中心部にも隣接する好立地にあります。こうした恵まれた立地条件も生かして、一日も早く地域の皆様に愛さ

れ、中国地方の中核拠点となれるように精進します。kcc



### 広島営業所

所在地：広島県広島市安佐南区伴南2丁目5番10-31号  
TEL: 082-849-6551 FAX: 082-811-9881

## サンクスフェア2007が大盛況

3月初旬から北海道・東北の各地で開催しているカナモトサンクスフェア2007。今年で5年目を迎えるこの感謝祭は、当社にとって普段お会いすることの少ない地域の皆様と親交を深める絶好の機会。なので、一人でも多くのお客様にお越しいただき、楽しんでいただけるよう各営業所とも趣向を凝らしたイベントをご用意してあります。

高所作業車試乗会やミニバックホーによるボールすくいなどの体験コーナーも人気なのですが、特にご好評なのが中古ハウスの特売会で、それはそれは長蛇の列ができるほどの盛況ぶり。どこの会場でも売り切れが続出しました。



お子様を含め多くの近隣住民の方にお越しいただきました(写真左、古川) タイムバーゲン(特売会)は長蛇の列ができるほど大人気(写真右、椎内)

各地で大盛況のサンクスフェアも、残すところ秋田(秋田市寺内/7月21・22日)のみとなりましたが、好評につき、現在追加開催を企画中です。詳細が決まりましたら、当社HPでお知らせします。kcc

## 個人投資家向け会社説明会も全国各地で開催しています

前項でも記しましたとおり、証券会社様のご協力を得て個人投資家向けのIR活動を各地で実施していま



神戸での説明会の様子。終了後には、当社への投資を前向きにご検討いただけるとのありがたいお言葉もいただきました

す。6月には三菱UFJ証券神戸支店、同広島支店で会社説明会を開催。本誌が発刊される7月上旬には野村證券の横浜西口、立川、渋谷の各支店で説明会を開催、秋には仙台でも開催が

決定しています。

また、8月31日(金)・9月1日(土)に東京ビックサイトで開催される「日経IRフェア2007」、そして11月30日(金)・12月1日(土)の「野村資産管理フェア」にも昨年に引き続き出展する予定です。これからも、当社を少しでもご理解いただけるよう努めます。

会社説明会、イベント出展情報につきましては、ともに当社IRサイト(<http://www.kanamoto.ne.jp>)で随時ご案内させていただきます。kcc

# 第43期(2007年10月期) 中間決算財務ハイライト (当社グループ連結決算)

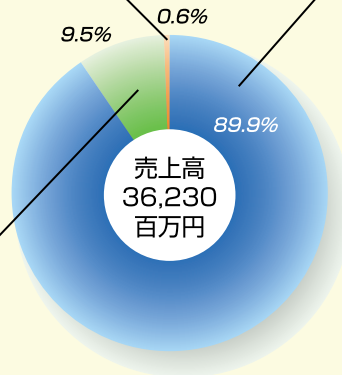
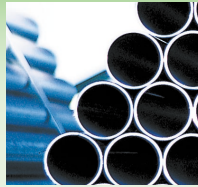
## 情報通信関連・その他の事業 216百万円



パソコンのレンタル需要が堅調に推移している一方で、商品販売が中古機売却の端境期となったことから、部門全体では対前年同期比1.3%減となりました。

## 鉄鋼製品販売事業 2,345百万円

民間建築の需要、通信事業向け鉄塔需要がともに一段落したほか、在庫過剰感から価格転嫁が進まず、売上高は対前年同期比23.3%減となりました。



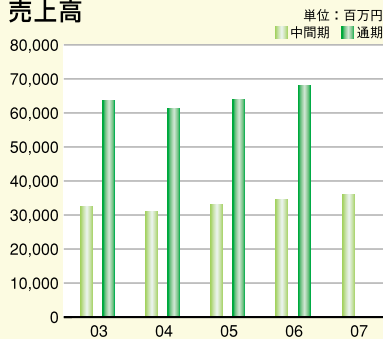
## 建設関連事業 33,668百万円



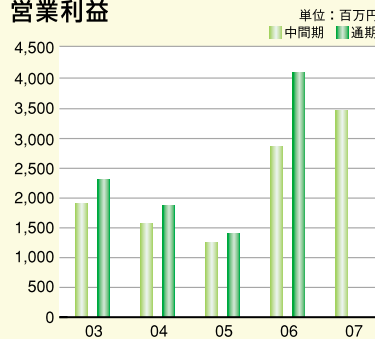
開設した広島営業所

地方では厳しい経営環境が続いたものの、営業の強化と民需の掘り起こし、建築系現場やイベント関連といった新市場の開拓などに努めた結果、売上高は対前年同期比7.8%増となりました。

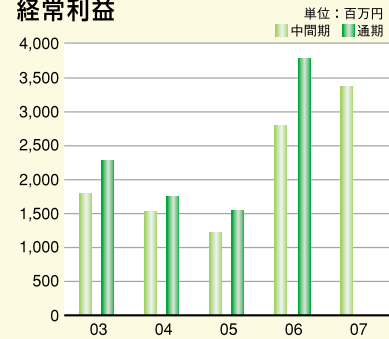
### 売上高



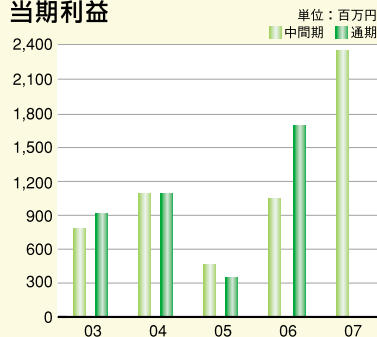
### 営業利益



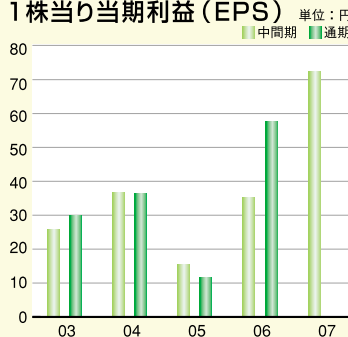
### 経常利益



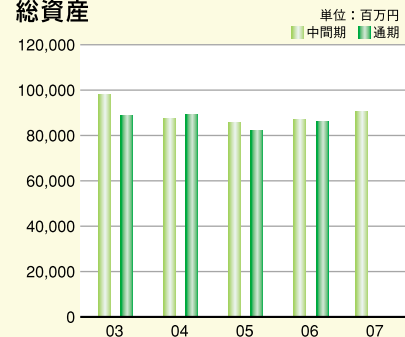
### 当期利益



### 1株当たり当期利益 (EPS)



### 総資産



## 第43期中間事業報告書

[2006(平成18)年11月1日から2007(平成19)年4月30日まで]

## [経営成績]

## 当連結会計期間の概況

当中間期の日本経済は、全般的にみると中盤からの円安基調で、輸出関連産業を中心に好調に推移しました。景気回復は大企業、大都市、特定富裕層を中心に進行し、雇用環境を示す失業率も4年ぶりに4%を割るなど、広く景気回復効果が表れ始めています。しかしながら一方では財政の厳しい地方、個人には景気回復が実感できない格差景気が依然として続いている状況といえます。

当社グループの収入は、財政が逼迫している地方では厳しい経営環境にありましたものの、民需の掘り起こしと数少ない公共事業をとりこぼさないよう鋭意努力した結果、主力事業の建機レンタルで大都市・地方を問わず収益が拡大するなど、それぞれの地域で堅調に推移しました。同事業による販売についても当初計画を上回る収入を確保しました。

## 当該事業年度の連結経営成績の結果

	当該中間期		前中間期	
売上高	36,230	(5.0)	34,520	(4.2)
営業利益	3,438	(19.7)	2,873	(122.5)
経常利益	3,422	(22.2)	2,801	(136.3)
中間純利益	2,382	(127.3)	1,048	(126.1)

単位:百万円 括弧内は対前年同期比増減(%)

## 建設関連事業

当社グループ全体の建設関連事業における中間連結業績につきましては、売上高が336億68百万円(対前年同期比7.8%増)、営業利益は33億46百万円(同22.0%増)と増収増益となりました。

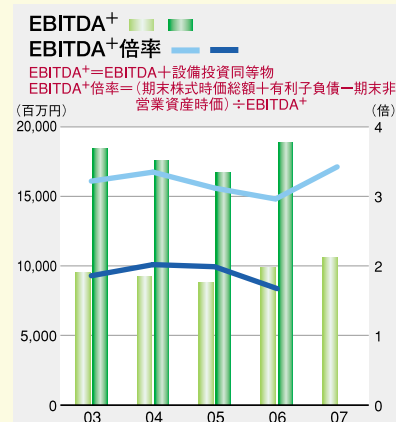
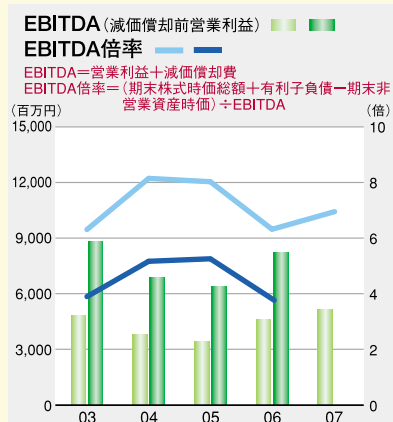
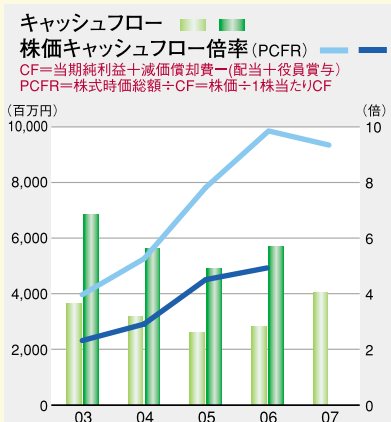
## 〈当社単体の状況〉

公共事業が毎年減少を続け、その不足分を補完する民需も見込めない地方においては、各地で非常に厳しい経営環境が続きました。数少ない需要を取り込むため、営業攻勢を一層強めるとともに、これまでは後手に回っていた建築系の現場や、イベント関連などにも積極的に営業を展開するなど、新市場の開拓に努めました。

単体の地域別建機レンタル売上の状況は、北海道地区は営業の強化と民需掘り起こしが奏功して対前年同期比5.2%増、東北地区は前年度に引き続き好調さを堅持して同5.8%増でした。関東信越地区は新潟・長野両県の災害復旧特需が終了したことから同1.9%減となりました。近畿中部地区は名古屋地区での旺盛な民間需要がありましたものの、兵庫県の需要減が足を引っ張る形となり同3.4%増で前半を折り返しました。「北海道」対「本州その他」の

## グラフで見る5年間(カナムト単体)

■ = 中間 ■ = 通期 ■ = 中間 ■ = 通期



地域の比率は32.3%：67.7%でした。

この結果、当社の当該事業部門単体のレンタル売上は対前年同期比3.0%増の220億73百万円、同じく販売売上は同29.2%増の78億13百万円、合計では対前年同期比で8.7%増の298億86百万円となりました。

当期の拠点新設閉鎖は、新設は千葉新港営業所(千葉市美浜区)と東通営業所(青森県下北郡東通村)の2拠点、閉鎖は小千谷営業所(新潟県小千谷市)の1拠点でした。

また、下期に入ってからですが、本誌4ページで紹介したとおり6月5日に中国地方初となる広島営業所(広島市安佐南区)を開設し、当社の営業拠点数は149拠点となっています。なお、本年2月に当社グループ初の海外進出となる上海金源設備租賃有限公司(関係会社)の設立による出資を行いました。現在同社は建設資材の輸出入業務を行っており、将来的には建機レンタル事業も展開する予定です。

#### 〈連結子会社の状況〉

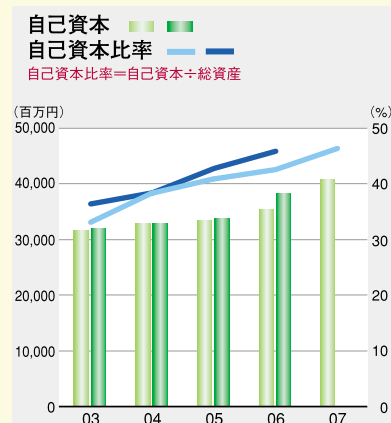
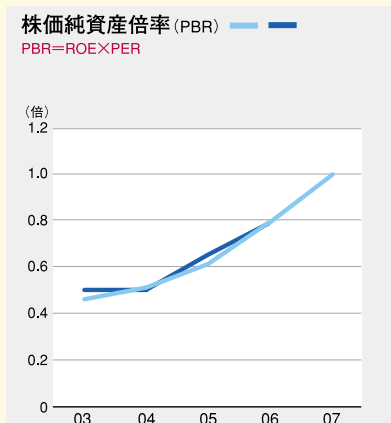
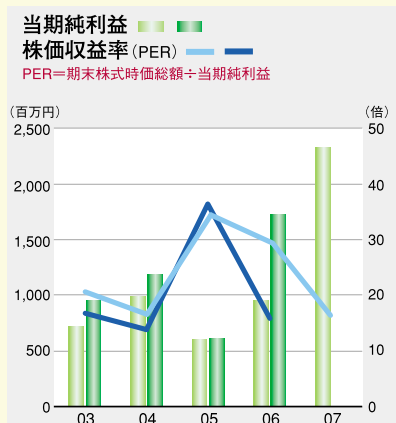
第一機械産業(株)は大型の災害復旧需要は一服しましたが、民需官需の確保とともに広く営業面での深耕に努めた結果、売上高は前年同期比8.2%増、営業利益は前年同期比57.7%増となりました。

(株)エスアールジー・カナモトはマンション建築工事向け足場が、前年度に引き続き好調に推移しており、売上高は対前年同期比25.1%増、営業利益は16,513千円の改善を見せ、中間期業績としては初めて黒字化しました。

(株)アシストは、事業譲渡した計測器レンタルの収益が剥落したため当初計画よりも売上高は若干下回り、対前年同期比1.6%減、営業利益も同14.3%減となりました。

経営再建中の(株)カンキは、兵庫県内の建機レンタル需要の減少と単価下落の影響から、売上高は対前年同期比8.0%減となりました。なお利益についても、大幅増強したレンタル用資産のコスト負担、営業拠点の新設移転のコスト負担から、営業損失を計上いたしました。

(株)カナテックは、材料高騰に伴う製品の価格是正を行ったほか、新型ユニットハウスのリリースが奏功し、売上高は対前年同期比21.7%増となり、営業利益は前年同期比15,453千円増となり、黒字に転じました。



## 鉄鋼関連事業

これまで堅調に推移してきた札幌市内のマンション等の民間建築の需要と、通信事業向け鉄塔需要が、ともに一段落したほか、在庫過剰感から価格転嫁も進まず、売上高は対前年同期比で23.3%減の23億45百万円、営業利益は13百万円の損失を計上しました。

## 情報関連事業

情報機器事業部門は、パソコンのレンタル料金が底這いの状態が続いているものの需要は堅調に推移しており、対前年同期比では5.5%増となりました。一方、商品販売は中古機売却の端境期となったため同47.9%減、部門全体では売上高は対前年同期比で1.3%減の2億16百万円、営業利益は同2.4%減の21百万円でありました。

## [経営方針]

### 目標とする経営指標

当社グループの主力事業であるレンタル事業は、設備投資負担が非常に大きく、かつ、数年に渡る期間損益を考慮しなければならない事業形態であることから、従前からROI(投下資本回収率)による資産効率を踏まえつつ、全体としてはEBITDA+〈減価償却前営業利益〉を重要な指標の

ひとつに据えております。

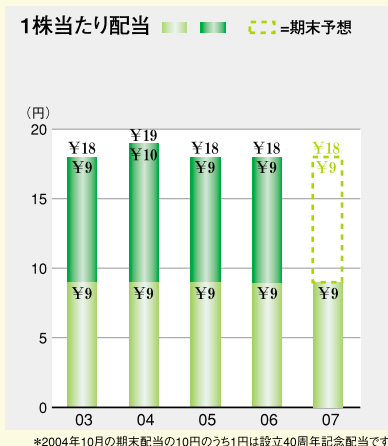
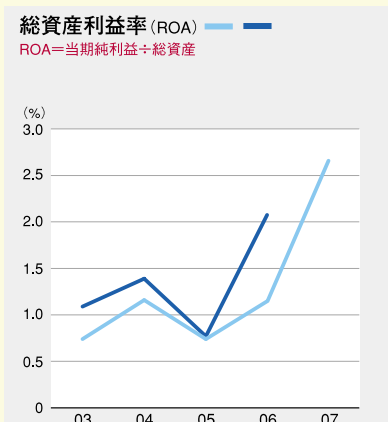
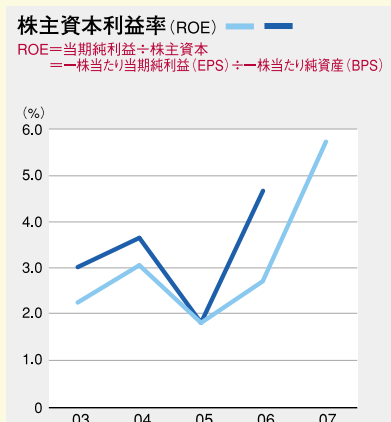
現在進行中の長期経営計画(2003年11月～2008年10月)の数値目標は、計画期間中の建設需要動向に不透明さがあったこともあり、過去数回にわたり当初計画と比較すると上方修正を行っております。当期の業績についても5月28日付で修正を発表しておりますが、2008年10月期通期目標については、回復が遅れている地方の建設需要も勘案して今回は修正を加えていません。連結業績にも影響するEBITDA+の維持拡大を念頭に、グループ全体での収益力向上に努めてまいります。

		2007年10月期	2008年10月期
連結業績	売上高	68,700	70,980
	経常利益	4,700	4,560
	E P S	73.05円	67.87円
単体業績 (当社)	売上高	62,000	63,670
	経常利益	4,700	4,500
	EBITDA+	19,117	19,960

単位:百万円 EPSは1株当たり当期純利益(単位:円)

## 中長期的な会社の経営戦略

長期経営計画『メタモルフォーゼ』は4期間を経過しましたが、利益構造の再構築、財務体質の改善策が漸次具現化してきており、その効果から当初の業績計画を三度に渡り





上方修正をしておりますが、引き続き利益重視の経営を実践して一層の業績拡大とマーケットに評価される『強いカナモト』を目指します。

#### (1) 利益重視のレンタル用資産構成の継続

最新型公害対策機への入替で短期化していた運用期間の適正化を継続するほか、収益率の高い機種を優先的に増強するなど、利益率向上に努めます。

#### (2) 大胆なスクラップ&ビルドの実施

新設出店は首都圏及び大都市圏周辺を優先、地方は現状維持を基本とします。当社グループ未出店地区については、あらゆる情報、機会をとらえ積極的に進出を検討していく方針であります。また、業績の伸長可能性、採算性をよく吟味して拠点閉鎖・統合を続けます。また、M&Aなどの手法にも積極的に取り組み、成長エンジンとしてまいります。

#### (3) 顧客第一の強い営業体制の構築とアライアンス

新カナモト総合補償制度、地方自治体との災害発生時の緊急要請対応契約締結など、企業規模を最大限に生かしたサービスの提供と、ユーザーニーズに直結した商品の提供により、顧客信頼度が高かつ地域社会に根ざした企業を目指します。また、北海道から沖縄まで網羅する当社グループ企業並びにアライアンス(提携)企業との企業連携を強化してシナジー効果を高めてまいります。

#### 通期(2007年10月期)連結業績予想

	前期実績	通期業績予想
売上高	68,023	68,700
営業利益	4,068	4,600
経常利益	3,788	4,700
当期純利益	1,742	2,400

単位:百万円 括弧内は対前年同期比増減(%)  
※ご参考:1株当たり予想当期純利益(通期)73.05円

#### 通期の見通し

日本経済は好業績の大手企業を中心に回復基調にあり、雇用環境も改善するなど過去最長の好景気を持続しております。しかし、未だ原油の高騰や米国景気の先行き不透明感などの国際情勢に左右される状況が続いており、また、足元を見れば財政破綻の危機を内包する地方自治体、社会的弱者拡大の問題など、国内の経済格差の二極化は依然と解消されておられません。

当社の主力事業に関係する建設需要は、企業業績回復を背景にした設備投資の持続から、首都圏や中京地区、関西地区などの大都市圏で需要が拡大していますが、公共事業に頼らざるを得ない地方においては、一部地方都市における再開発事業、マンション建設などの民間建設需要が期待できるものの公共事業の落ち込みをカバーするに至らず、依然、厳しさが続くものと予想されます。加えて、7月の参院選の影響から工事着工の遅れなども想定されます。

よって、通期の予想については、地方の建設需要動向に大きな改善はないとの見方から、経営環境は極めて厳しい状況と考えております。当社グループといたしましては、各社の連携強化を図り、積極的営業を展開するなど、これまでの増収増益基調を維持すべく努めてまいります。なお、6月に広島営業所を開設しましたが、引き続き首都圏、名古屋、大阪で拠点増設を目論みます。

#### 通期(2007年10月期)個別業績予想

	前期実績	通期業績予想
売上高	60,753	62,000
営業利益	3,715	4,300
経常利益	3,739	4,700
当期純利益	1,720	3,000

単位:百万円 括弧内は対前年同期比増減(%)  
※ご参考:1株当たり予想当期純利益(通期)91.31円

## ■ 連結財務諸表

### 連結損益計算書

	第42期中間 (2005.11.1~2006.4.30)	第43期中間 (2006.11.1~2007.4.30)
(単位:百万円)		
① 売上高	34,520	36,230
売上原価	24,591	25,284
売上総利益	9,928	10,946
販売費及び一般管理費	7,055	7,507
② 営業利益	2,873	3,438
営業外収益	172	239
営業外費用	244	255
② 経常利益	2,801	3,422
特別利益	16	948
特別損失	638	75
税金等調整前中間純利益	2,179	4,295
法人税、住民税及び事業税	1,121	1,778
法人税等調整額	△31	98
少数株主利益	40	35
② 中間純利益	1,048	2,382

### 連結キャッシュ・フロー計算書

	第42期中間 (2005.11.1~2006.4.30)	第43期中間 (2006.11.1~2007.4.30)
(単位:百万円)		
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	9,183	6,774
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	501	△1,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,731	△1,601
現金及び現金同等物の増加額	6,953	4,067
現金及び現金同等物の期首残高	14,108	18,398
現金及び現金同等物の中間期末残高	21,062	22,465

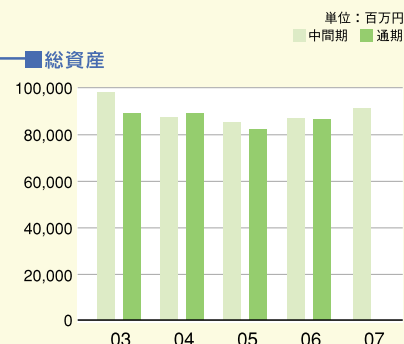
### Point

- 建設関連事業については、民需の掘り起こし、新市場の開拓などに努めた結果、レンタル売上が大都市・地方ともに堅調に推移。加えて、中古建機販売が当初計画を上回る売上を確保。鉄鋼製品販売事業および情報通信関連事業がマイナスに転じたものの、こうした建設関連事業の好調さを背景に、売上高は対前年同期比5.0%増となりました。
- 長期経営計画で掲げているレンタル用資産の運用効率向上、減価償却負担軽減などの施策効果が前年度に引き続き着実に成果として表れてきており、営業利益は対前年同期比19.7%増、経常利益は同22.2%増、中間純利益は同127.3%増となるなど、総じて前年同期を上回る結果となりました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比24億08百万円減の67億74百万円の収入となりました。これは主に税金等調整前中間純利益の増加や売上債権の減少額の拡大があった一方で、仕入債務の増加額が縮小したこと、および固定資産売却益が発生したことなどによるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比16億06百万円減の11億05百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入の増加などがあった一方で、有形固定資産の取得による支出が増加したこと、および非連結子会社株式の取得による支出が増加したことなどがあったためであります。



## 連結貸借対照表

(単位:百万円)	第42期中間 (2006.4.30)	第43期中間 (2007.4.30)
(資産の部)		
流動資産	36,467	37,420
固定資産	50,535	53,447
有形固定資産	42,382	43,931
無形固定資産	610	489
投資その他の資産	7,542	9,026
<b>資産合計</b>	<b>87,003</b>	<b>90,867</b>
(負債の部)		
流動負債	30,083	29,435
固定負債	21,546	21,032
<b>負債合計</b>	<b>51,629</b>	<b>50,467</b>
(少数株主持分)		
少数株主持分	111	—
(資本の部)		
資本金	8,596	—
資本剰余金	9,720	—
利益剰余金	14,464	—
その他有価証券評価差額金	2,672	—
自己株式	△191	—
<b>資本合計</b>	<b>35,262</b>	<b>—</b>
<b>負債・少数株主持分及び資本合計</b>	<b>87,003</b>	<b>—</b>
(純資産の部)		
株主資本	—	37,622
資本金	—	9,696
資本剰余金	—	10,960
利益剰余金	—	16,976
自己株式	—	△11
評価・換算差額等	—	2,649
その他有価証券評価差額金	—	2,649
少数株主持分	—	127
<b>純資産合計</b>	<b>—</b>	<b>40,400</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>—</b>	<b>90,867</b>



## 連結株主資本等変動計算書 (2006.11.1~2007.4.30)

(単位:百万円)	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2006年10月31日残高	9,696	10,960	14,889	△6	35,540	2,418	2,418	92	38,051
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△295		△295				△295
当期純利益			2,382		2,382				2,382
自己株式の取得				△5	△5				△5
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						230	230	35	266
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	2,087	△5	2,082	230	230	35	2,348
2007年4月30日残高	9,696	10,960	16,976	△11	37,622	2,649	2,649	127	40,400

## ■ 個別財務諸表

### 個別損益計算書

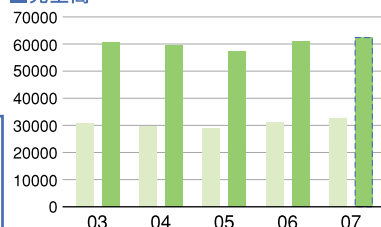
	第42期中間 (2005.11.1~2006.4.30)	第43期中間 (2006.11.1~2007.4.30)
(単位:百万円)		
売上高	30,764	32,449
売上原価	22,230	22,940
売上総利益	8,533	9,508
販売費及び一般管理費	6,037	6,438
営業利益	2,496	3,070
営業外収益	296	361
営業外費用	223	235
経常利益	2,569	3,195
特別利益	4	946
特別損失	621	68
税引前中間純利益	1,951	4,074
法人税・住民税及び事業税	1,032	1,655
法人税等調整額	△35	98
中間純利益	955	2,320
前期繰越利益	632	—
中間未処分利益	1,587	—

### 個別貸借対照表

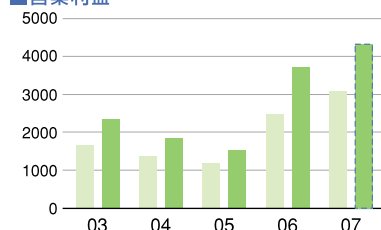
	第42期中間 (2006.4.30)	第43期中間 (2007.4.30)
(単位:百万円)		
(資産の部)		
流動資産	33,474	34,478
固定資産	49,884	52,928
有形固定資産	41,464	43,150
無形固定資産	165	159
投資その他の資産	8,253	9,618
資産合計	83,358	87,406
(負債の部)		
流動負債	27,663	27,084
固定負債	20,089	19,695
負債合計	47,752	46,779
(資本の部)		
資本金	8,596	—
資本剰余金	9,720	—
利益剰余金	14,814	—
その他有価証券評価差額金	2,666	—
自己株式	△191	—
資本合計	35,605	—
負債資本合計	83,358	—
(純資産の部)		
株主資本	—	37,981
資本金	—	9,696
資本剰余金	—	10,960
利益剰余金	—	17,335
自己株式	—	△11
評価・換算差額等	—	2,644
その他有価証券評価差額金	—	2,644
純資産合計	—	40,626
負債・純資産合計	—	87,406

単位:百万円  
■ 中間期 ■ 通期 ■ 予想値

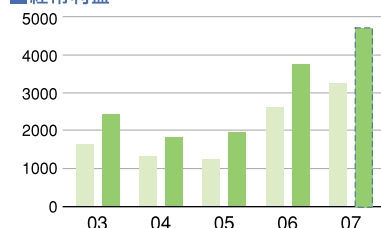
#### ■ 売上高



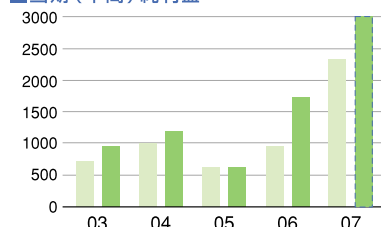
#### ■ 営業利益



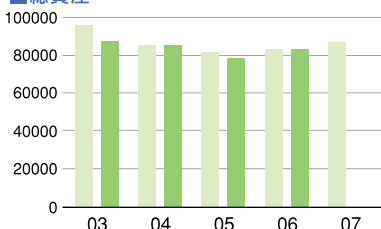
#### ■ 経常利益



#### ■ 当期(中間)純利益



#### ■ 総資産



株主資本等変動計算書 (2006.11.1~2007.4.30)

	株 主 資 本										評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金					自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計					
(単位:百万円)						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金						
2006年10月31日残高	9,696	10,817	143	10,960	1,375	19	11,831	2,084	15,310	△6	35,962	2,414	2,414	38,376
中間会計期間中の変動額														
別途積立金の積立				—			1,100	△1,100	—		—		—	—
剰余金の配当				—				△295	△295		△295		—	△295
中間純利益				—				2,320	2,320		2,320		—	2,320
自己株式の取得				—					—	△5	△5		—	△5
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額(純額)												230	230	230
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	1,100	924	2,024	△5	2,019	230	230	2,250
2007年4月30日残高	9,696	10,817	143	10,960	1,375	19	12,931	3,008	17,335	△11	37,981	2,644	2,644	40,626

## とってもいいモノ・読者プレゼント

アンケートハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で20名様に当社特製ノベルティグッズを差し上げます。今回ご用意したものはゴルファー必携のグリーンマーカーです。

ハニカミ王子こと石川遼くんが鮮烈デビューしてから再び脚光を集めているゴルフですが、ゴルフのいいところは、多少下手糞でも小道具で楽しめる場所。斯く言う私も小道具派でして…。ということで、カナモトが作ったグリーンマーカーがこれ。クリップ本体は20gの金のインゴットをモチーフにしたもの。寸法もズバリそのものだからホントに見紛えます。カナモト坊やとゴルフボールをデザインしたマーカーは使いやすい25mm径で、その日の気分で使い分けられます。



何故インゴットか、ですって？ それは編集後記をご覧ください。

なお、ご応募の締め切りは8月17日(当日消印有効)です。  
当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

株主様からのご質問に答える

## Q & A コーナー

いつもアンケートハガキをご返答いただきありがとうございます。皆様から頂戴したご質問にお答えするのがこのQ&Aコーナーです。  
ご意見、ご要望がございましたら、添付のハガキにご記入のうえ、ご返送ください。

### Q 最近カナモトの株を買ったのですが、資料の中に出てくる「メタモルフォーゼ」とはなんですか？

**A** メタモルフォーゼとは、2003年11月にスタートし、来期(2008年度)に完遂する当社の長期経営計画のことで、「高収益体質の企業への変革」を目指すもので、いくつかの具体的骨子が現場主導で立案され、実行されています。具体的な内容としては、①資産オペレーションの最適化・資産のロングライフ化、②レンタル資産の運用に要す冗費の削減、③レンタル単価是正によるROIの向上、④積極的な営業拠点のスクラップ&ビルドなどが挙げられます。徐々にではありますが、これらの施策効果は着実に成果として表れてきており、近年の増収基調に結びついています。kcc

### Q 広島営業所を開設したようですが、今後も中国地方に展開するのですか？

**A** カナモトでは、首都圏・中京・関西を最重点地域としながらも、各地の需要などを考慮したネットワーク構築を図っています。中国地方を含む西日本には多くの拠点空白地域が残されており、相応の需要が見込めます。よって引き続き積極的な拠点展開を行い、皆様のニーズにお応えしていきたいと考えています。kcc

### Q 中間決算の内容で、固定資産の売却益の額はいくらですか？また、通期予想があまり伸びないのはなぜですか？

**A** 固定資産売却益として、土地の売却益で9億2000万円を計上しています。  
通期業績予想の数値については、当社の業績が比較的上期に集中しやすいこと、7月に行われる参議院選挙による公共事業遅延への影響など、さまざまな要因を考慮して慎重な見通しとしました。kcc

## Lineup 取扱商品のご紹介

今回の取扱商品紹介コーナーでは、環境と安全に配慮したソーラー式LED表示機「LEDソーラーサインボード」をご紹介します。

### LEDソーラーサインボード

北海道全域で建設保安用品などのレンタル・販売を手がける当社子会社のアシスト。今回ご紹介する「LEDソーラーサインボード」は、同社が“環境と安全”をコンセプトに導入したソーラー式LED表示機です。

通常の表示看板は、発電機などによる電源供給が必要となりますが、当商品はソーラーパネルで発電しバッテリーに蓄えた電気を利用するため、電源供給が不要。太陽光というクリーンなエネルギーを活用し、フル充電すると無日照でも5日間の連続運転が可能な「省エネ」を実現するなど、まさに環境配慮型の機

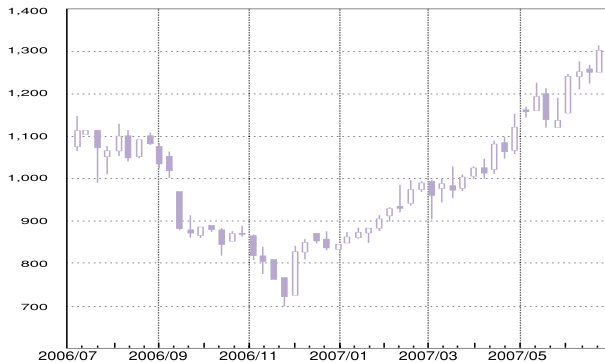
器となっています。しかも、掲示板部分に高輝度ブルーグリーンLEDを採用しているため、省エネといえども表示はくっきり。夜間でも安全にご使用いただけます。

また、携帯電話の赤外線機能を使って自由に文字入力ができるという付加機能もあり、“いまどき”のニーズにもお応えしています。kcc



札幌駅前通りの工事現場に設置されている

## 株価チャート (週足)



## 拠点ネットワーク

### カナモト アライアンスグループ

#### 連結子会社

- 株式会社アシスト (10拠点)
- SRGカナモト株式会社 (3拠点)
- 株式会社カナテック (7拠点)
- 第一機械産業株式会社 (9拠点)
- 株式会社カンキ (7拠点)

#### 非連結子会社

- 株式会社コムサプライ (5拠点)
- フローテクノ株式会社 (2拠点)

#### アライアンス提携会社

- 九州建産グループ (4社20拠点)
- 町田機工株式会社 (15拠点)
- ツールレンタル事業 (5拠点)



### ■ 当社及び当社グループ営業拠点エリア別内訳 2007年6月現在

	カナモト	連結対象会社	その他アライアンスグループ	計
北海道	57	17	4	78
東北	43	2	5	50
関東	27	1	1	29
中部	15	—	—	15
近畿	5	7	—	12
中国	1	—	—	1
四国	1	—	—	1
九州	—	9	22	31
沖縄	—	—	15	15
計	149	36	47	232

## 株価および売買高 (東証分のみ、単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2006年 6月	969	1,091	920	1,081	2,884
7月	1,076	1,147	990	1,100	2,648
8月	1,110	1,130	1,042	1,064	1,040
9月	1,053	1,062	863	887	3,617
10月	890	890	820	846	2,473
11月	833	852	700	829	1,609
12月	819	875	811	843	995
2007年 1月	848	920	848	915	1,436
2月	923	996	905	958	2,009
3月	959	1,029	945	1,024	2,111
4月	1,025	1,158	1,002	1,153	1,908
5月	1,159	1,233	1,120	1,225	1,799

## ● 編集後記 ●

あれもこれも書かねば、ああ発行のタイミングが悪いなどと四苦八苦しながら、ふと気がつけば小誌も40号です。早いものです。株主の皆様がお書きいただいたアンケートハガキに励まされながら、何とか編集を続けて来られました。感謝感謝です。今回、社長に随行してイギリスとアメリカの投資家を訪問してまいりましたが、本文中にも記しましたとおり、少々時間が空き過ぎた感があります。ただ、渡航にはそれなりに費用がかかりまして、なかでも通訳の費用が何と高いことか。自分の英語力のなさに憤慨するばかりです。それにしても社長の明快な説明と切れ味鋭い回答には、改めて頭が下がりました。

帰国後もすぐに、機関投資家訪問のほか個人投資家説明会も各地で開催させていただいています。上方修正となった中間業績が好感されて、お陰様で株価は順調に推移しています。ありがとうございます。これからも継続して情報発信を精力的に実施してまいります。とはいえ、株価は業績に連動するもの。やはり営業の頑長りが一番です。下期も一所懸命頑張らなげや。

今、建設機械業界は対外輸出が好調で、新しいニュースが続々と出てきています。建機レンタル業界もまた然り。当社も着々と次のステップアップへの準備を進めていますが、競合他社も業界の盟主となるべく、次の一手を打ってきています。ただ、当社と多数の競合他社と違うところは、株主の皆様がいらっしゃる。心強い限りです。皆様のご期待に報いられるよう当社も役員一丸となって業績向上に努力いたしますので、引き続き、ご支援をお願いいたします。

おっと、「金のインゴット」を忘れるところでした。いや、もうお気付きですね?カナモトを漢字にすると…です。皆様の資産価値を高める銘柄でありたいとの一念です。単純すぎてごめんなさい。でも、証券コードとEDINETコードが入ってたりと宣伝も忘れてませんので、ゴルフをされない方もお許しを。



**株式会社 カナモト**

(東証一部・札幌 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel : (011) 209-1600 (大代表)

<http://www.kanamoto.co.jp>

## 株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます。

具体的な実施日は政令で決定されますが、2009年1月を実施目標として準備が進められています。

「株券の電子化」の詳細につきましては、日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターまでお問い合わせください。

### お問い合わせ先

証券受渡・決済制度改革懇談会事務局 TEL. **03-3667-4500** ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>

## 株主メモ (2007年1月31日現在)

資 本 金 96億9,671万円 (払込済資本金)

発 行 株 数 32,872千株 (発行済株式総数)

決 算 期 毎年10月31日 (年1回)

株 主 総 会 毎年 1月中

同総会議決権行使株主確定日 毎年 10月 31日

利益配当金受領株主確定日 毎年 10月 31日

中間配当金受領株主確定日 毎年 4月 30日

公 告 の 掲 載 当社ホームページ、日本経済新聞\*

お手持ちの株券に関するお手続きのほか、住所、名義、届出印、配当金の振込み口座などの変更をご希望の場合は、下記<株主名簿管理人>宛てにご連絡をいただきたく、お願いいたします。  
 なお、株券を証券会社に預託されている場合は、当該証券会社へご連絡下さいませようお願い致します。

株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社

事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵 便 物 送 付 先 〒137-8081  
 お よ び 電 話 照 会 先 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
 野村證券株式会社 全国本支店

\* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ (<http://www.kanamoto.co.jp> または <http://www.kanamoto.ne.jp>) に掲載いたします。  
 なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。